

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392900029		
法人名	株式会社日本介護研究所		
事業所名	グループホーム太陽かりや (ゆうひ)		
所在地	愛知県刈谷市神明町4丁目723番地2		
自己評価作成日	平成25年10月1日	評価結果市町村受理日	平成26年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

刈谷駅近くの住宅地の中にあり、建物は民家を増改築し(9名×2ユニット)18名の方が入居されている。開設から4年目、尊厳を重視、「一人ひとりのニーズに合わせてきめ細やかな介護、心に寄り添う介護」を理念に上げ実践、ご利用者との信頼関係も築かれ様々な思いをご利用者と職員が共有でき、共に支え合いながら穏やかな毎日がある。お庭には花や野菜を育て楽しみ、ボランティア団体による歌の披露やドライブを兼ね季節折々の花など見に行くことに大変喜ばれ継続したい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	care-mado.com/search/Jigyosho/group/chubu/aichiken/96_23929
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は地域との関わりを大切に、目標達成計画でも「外部の人に来訪してもらう機会を多くする」として、地域のボランティアに継続して来てもらったり、保育園との交流も実現できた。また、近所の人との交流も深まり、アニマルセラピーの認可を受けている犬が庭まで来て利用者と触れ合っている。家族からなるべく外出させて欲しいとの要望があり、毎日の散歩やドライブ、買物、地域の行事への参加など少しでも多く外出する機会を持つよう取り組んでいる。また、運営推進会議をホーム内で行ない、日頃のレクリエーション(カラオケや貼り絵など)の様子を見てもらうことが出来る良い機会になっている。今後もさらに地域に開かれた事業所にしたいとの職員の意気込みが感じられた。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年12月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々のニーズに合わせてきめ細やかな介護、心に寄り添う介護を理念に上げミーティングや申し送りを通して実践に努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会への入会、地域の掃除、お祭り、敬老会、地域合同消防訓練、日常的な散歩などを通して地域の方と交流している。桜地区のボランティア団体や近所の保育園との交流も行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員、近隣住民の方を通して地域の高齢者の方へ気軽にどなたでも立ち寄っていただけるよう働きかけている。また突然の来客者にたいしても快く迎え入れようとしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的(2カ月毎)に開催。会議での意見をサービスの向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、情報交換や指導をいただきながら質の向上に取り組んでいる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者及び全ての職員は常に話し合い身体拘束をしないケアに努め、言葉の拘束についても意識し日常の言葉使い等に気をつけている。適切でない発言があれば代表者を通じて改善し自由な暮らしを支援するよう努めている。定期的に勉強会も実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、職員同士で情報交換し常時の観察、異常がないか等の観察、防止に努めている。異常があれば必ず報告することになっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要な方には支援しており、過去2名の利用者が成年後見制度を利用していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には十分に説明するよう努め、理解していただき、一度自宅で確認する事を進めて後日契約としている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族会を開催し、家族の来苑も多く面会時には意見や希望をお聞きしている。また常日頃から要望を聞き、改善する事があれば速やかに対応するよう努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に意見を言える場を設け、代表者からも聞き運営の充実に努めている。職員の意見を大切に働きやすい環境づくりに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々の職員の努力や勤務状況を把握し、コミュニケーションを図りそれぞれの職員の要望が叶えられるような職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部の研修への参加機会を設け、また職員一人ひとりの力量を把握し、指導方法を検討、働きながらトレーニングを行い技術向上に努めている。外部講師を招くなどして知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会を持ち、相互サービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや希望に耳を傾け、お1人でいるような時は声かけを行い現状等をお聞きするようにしている。普段よりも声掛けを多くしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来苑された際には、本人の様子や言動等を伝えさせていただくよう努めている。定期的に施設側から連絡し、家族の意見も聞かせてもらうよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居された時は身体面・精神面等の状況から、必要としている支援を見極め本人の希望を取り込んだサービスとなるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共にし、職員は日々入居者の皆さんから行える手伝いを通じて、共に支え合う関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には本人の状況を報告しながら家族の意見をお聞きし、本人の意思を尊重し一緒に考えていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた関係や物、思い出を大切に、本人・家族の希望を聞きながら希望にそって支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、相性などがうまくかみあうような信頼関係が作れるよう支援に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後においても代表者が必要に応じて、本人・家族からの相談を受け支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い・希望等傾聴するとともに、家族に相談し協力を得ている。日々変わる要望を聞き取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の環境、また趣味・興味・関心事等を本人や家族にお聞きし、今までの暮らしを把握するよう努めている。入居してからはさらに深い個人の歴史を少しずつ聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能を低下しないよう生活していただく支援(廊下での歩行練習など)を行い、心身の状態・有する力等の維持に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすためのケアのあり方・処遇について、本人・家族・関係者と話し合い現状にそった介護計画を作成し、可能な限り適宜本人とも話し合い、見直している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人介護記録を毎日記入し、申し送り用紙を別途作成し職員間で情報を共有するとともに日々ケアの見直し・向上に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を見ながら柔軟な対応に努め、サービスの多機能化に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが地域の中で安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族等の希望を大切にし希望の医療機関へ受診していただき、その際ホームでの様子や必要な情報提供を行いかかりつけ医との連携に努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診クリニックの看護師等と連携し、個々の利用者が適切な受診を受けられるよう支援している。訪問看護師とも連携して、日々の変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーの提供や職員が面会に行くようにしており帰院した際の疎外感がないようにしている。病院関係者との情報交換に努め、退院時には看護サマリー・退院指導等を受けている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明、同意をいただいております。重度化する可能性がある場合、家族・医師・職員と情報を共有し話し合い方向性を決めるよう努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時、速やかに冷静に的確な対応をするよう全職員が努めている。定期的に救急時の勉強会を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立て年4回防災訓練を実施しており、地域の民生委員の協力を得ながら今年度も地域との合同防災訓練が実施できている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、介助の際には自尊心を傷つけないように十分配慮している。介助されるよりも、いっしょに行うということに重点を置くようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を傾聴し、個々に合わせた生活ができるよう支援している。本人のペースを重視し、できるだけ選択ができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いやペースを大切にし、その日をどのように過ごしていただくか希望をお聞きしながら他の方との関わり方を含め支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の意見を尊重できるよう努め、好みやこれまで大切にされてきたことを継続できるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事を楽しみにしていただけるよう、一人ひとりの好みの把握や食事作りでは事前準備を整え(個々に応じてごはんにふりかけるものなどを用意し、味の変化をつけて)皆さんで楽しい雰囲気の中でしていただけるよう支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事量や水分量の確保(味のある飲料を用いたり)栄養バランスの配慮、糖尿病の方の食事については病院の担当栄養士の指導を基に適切な支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持、疾病防止等から毎食後個々の状態に合わせ口腔ケアを支援している。比較的自立の方においても声掛け見守りし状況を観察させていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表から毎日の排泄状態を把握し、その方に合った排泄支援に努めている。できるだけトイレでの排泄維持・継続できるように声かけ、定時誘導などに努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄表から排便状態を把握し、個々に応じた予防・支援に努めている。特に水分不足になり便秘気味にならないよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの習慣や好みを大切にできる限り本人の希望にそい入浴支援を行っている。ぬるま湯が好きな方には午後(後半)の入浴を心かけている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活でのストレス軽減や夜間の安眠につながるため、その時の状況に応じ仮眠時間を設け休息できるよう支援している。毎日の足浴からも支援を図る		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人ひとりが使用している薬やその作用・用法・量について、理解・把握しており、服薬の支援・確認と症状の変化・副作用等にも注意している。薬の変更時には申し送りなどで伝達している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割や楽しみごとなど配慮しながら、ゲーム性を持たせた軽体操などをし、張り合いや喜びを抱いていただけるよう気分転換等の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。ドライブ・花観賞等家族や地域の方々にも協力をいただきながら支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じ、家族の意見も考慮しながら買い物の場合、本人に品物を選んでいただくなど支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については本人や家族と話し合い、希望に応じて電話で話す機会を検討している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は快適で過ごしやすいよう工夫、生活に潤いが増すよう支援している。個人や共同で作った作品などを展示。家庭的な雰囲気の中に自分達の場所があるように努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は一人ひとりの尊厳や関係性を重視し、テーブル席の位置、または体調等に合わせ動きやすいよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は毎日居心地良く過ごせるよう、換気・清潔感・安全等に配慮し職員は定期的な巡回だけでなく状況に合わせ温度調整などを多くするなど努めている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は周囲の安全を確認し、動線を確保して自立を尊重できるような環境作りに配慮している		